

11/16 月

医療費負担でも発言不記載

議事録 経団連会長「2割」示す

政府の全世代型社会保障検討会議で政府方針と異なる意見を述べた中西宏明経団連会長の発言の一部が議事録に記載されなかつた問題で、医療費の負担増を巡る中西氏の発言でも不記載部分があつたことが分かつた。七十五歳以上の医療費の窓口負担に関して「割負担が望ましいとの考え方を示したが、議事録では「二割」という具体的な水準は記載されなかつた。

複数の政府関係者によると、議事録作成や経団連どんやうどりを担つた実質的な責任者が、内閣官房の事務局ナンバー4である室長

代理補だつた」とも判明。野党は政府側が経団連に圧力をかけた疑いがあるとして批判を強めている。

政府は十五日までに、衆参両院の厚生労働委員会の理事懇談会で、議事録作成過程で経団連と交わしたメールを開示した。

経団連側の当初の文案では、現在は七十五歳になると原則一割以下がる医療費の窓口負担について、中西氏が「二割負担を継続する」ことが不可避との認識を示したが、複数回のやりとりを経て数字が省かれ「負担を継続する」となつた。

働く高齢者の年金を減ら

す在職老齢年金制度に関しても、経団連案は「勤労意団連側の案が実際の発言を反映したもの」という。複数の関係者によると、経団連側の案が実際の発言を反映したものといふ。欲を減退せざるとの議論があるのは承知しておられますけれども、そんなことはないのではないか」などとする発言を明記したが、議事録には記載されなかつた。